

令和8年度

シラバス(専門教科)

～農林技術科 3年～



鹿児島県立伊佐農林高等学校

農林技術科 3年 専門教科

1 課題研究

2 総合実習

3 野菜

4 畜産

5 農業経営

6 農業機械

7 食品製造

8 森林経営

9 林産物利用

10 測量

11 地域資源活用

<h1>課題研究</h1>	単 位	3 単位
	学科・学年・学級	農林技術科 3 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 生徒自ら課題を設定して計画を立て実施し、計画性、実践力及び問題解決の能力を養います。 2 自主的、継続的に学習することで探求的、創造的な態度と能力を身につけます。 3 課題解決により、成就感と自信を持つことで、自己実現を図る能力と態度を身につけます。
使用教科書・副教材等	各専攻によって異なる。

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	1 課題発見とテーマの決定 2 計画（計画の立案） 3 実施（学習活動）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の意味を理解する。 ・自分の専攻班の中で課題を見出し、研究テーマを決定する。 ・テーマに従って課題解決の計画を作る。 ・計画に従って学習活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は各専攻によって異なる。
2 学 期	1 実施（学習活動） 2 学習のまとめ 3 発表原稿の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に引き続き活動を行う。 ・学習結果に従い結果をまとめる。 ・データの分析や考察の検討を通して、論理的思考を身につける。 ・発表に備え、原稿のまとめやプレゼンテーションの作成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は各専攻によって異なる。
3 学 期	1 研究発表 2 学習結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した原稿とプレゼンテーションを用いて聴衆に分かりやすく発表する。 ・学習成果を冊子にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は各専攻によって異なる。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けての実習や実験内容の基本的な知識を理解し、そのための技術が身につけたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・レポートの記入 ・行動観察 ・プレゼンテーションの作成 ・発表 ・研究冊子のまとめ ・服装・忘れ物 ・欠席・遅刻 ・大会・競技会・コンテスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を多面的にとらえ考察を行っているか。 ・課題を科学的にとらえ合理的に解決する実践的な態度を身につけているか。 ・結果の考察などが正確に表現できるか。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定や計画立案を積極的で、解決に向けて協働的に取り組む態度が身につけているか。 ・学習に対する服装や姿勢が、良好で意欲に学習しているか。 	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

総合実習 (部門別)	単 位	3単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	(1)体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得します。 (2)専攻においての内容理解を深め、基礎的専門分野の知識や実技など実践的な能力と態度を育てます。
使用教科書・副教材等	実験実習ノート

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学期	○専攻別での専門学習 ・肉用牛班 ・養豚班 ・園芸班 ・林業班 ・食品加工班	・専攻における基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。 ・農業技術検定の初級・中級の合格を目指します。 ・農業鑑定競技や意見発表を通して、農業に関する知識を深めます。	
2 学期	○専攻別での専門学習 ・肉用牛班 ・養豚班 ・園芸班 ・林業班 ・食品加工班	・専攻における基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。 ・農業技術検定の初級・中級の合格を目指します。 ・産業現場での総合的な実習を通して、農業生産工程管理やマーケティング、労働管理の手法等を学びます。	
3 学期	○専攻別での専門学習 ・肉用牛班 ・養豚班 ・園芸班 ・林業班 ・食品加工班	・専攻における基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。 ・農業技術検定の初級・上級の合格を目指します。	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	・各専攻に関する基礎的な知識と技術を身につけ、特性と社会環境の関係や育成の過程等を理解しているか。	【学期全体を通して】 ・毎回の出席点 ・毎回の実習態度 ・毎回のレポート提出
思考・判断・表現	・管理の記録を分析するなど課題を多面的に考察しているか。 ・見出した課題を科学的にとらえて合理的に解決する実践的な能力を身につけているか。	【一学期】 ・意見発表大会 原稿提出、取り組み状況
主体的に学習に取り組む態度	・各専攻学習に興味・関心を高めているか。 ・各専攻に関するプロジェクトを主体的に行うなど課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身につけているか。	・農業鑑定競技会 取り組み状況

※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に振り分け評価する。学期末において、観点ごとの総合評価を行う。

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

<h1>野菜</h1>	単 位	2 単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第3 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 野菜の植物的特性や食生活における価値、農業の中での重要性などを理解する。 2 栽培や観察など体験的な学習を通して栽培管理の基本的方法を理解し、栽培できる能力を養う。 3 調査や実験を通して科学的に考える力や問題を解決する能力を高める。 4 生産物の商品化や流通について基礎的事項を理解し、経営に応用する資質を養う。
使用教科書・副教材等	野菜 (実教出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学 期	4章 果実を利用する野菜 1 トマト 2 ナス 3 ピーマン 4 キュウリ 10 スイートコーン	<ul style="list-style-type: none"> ・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し観察する。 ・栽培管理のポイントについて理解し、定植、誘引、着果促進、適期収穫、病害虫の防除、肥培管理などが的確に行う。 ・作型と品種選定にどのような関係があるか理解する。 ・病害虫や生理障害を的確に観察する。 ・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということ、野菜の特性と比べて理論的に考える。 ・作型が現在のように分化してきた理由を考える。 	・各野菜の栽培管理や観察、実験などを展開する。
2 学 期	5章 葉や茎を利用する野菜 1 キャベツ 2 ハクサイ 4 ブロッコリー 7 ネギ 8 タマネギ 6章 根を利用する野菜 1 ダイコン	<ul style="list-style-type: none"> ・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し観察する。 ・栽培管理のポイントについて理解し、定植、誘引、着果促進、適期収穫、病害虫の防除、肥培管理などが的確に行えたか。 ・作型と品種選定にどのような関係があるか理解する。 ・病害虫や生理障害を的確に観察する。 ・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということ、野菜の特性と比べて理論的に考える。 ・作型が現在のように分化してきた理由を考える。 	・各野菜の栽培管理や観察、実験などを展開する。
3 学 期	7章 野菜の流通と経営改善 1 野菜の流通と鮮度保持 2 加工・業務用野菜 3 野菜生産の経営改善	<ul style="list-style-type: none"> ・卸売市場等の見学や市場統計、農業統計などのデータを分析し、野菜の流通の仕組みが理解する。 ・品質低下の原因や鮮度保持の技術が理解する。 ・加工・業務用野菜の需要および生産について理解する。 ・野菜生産の課題に関して、実際の栽培体験などのさまざまな学習によって知識や理解が深まる。 	・各野菜の栽培管理や観察、実験などを展開する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜に関する基礎的な知識を習得し、それぞれの農産物の特性とそれを取り巻く栽培・飼育環境との関係を理解しているか。 ・野菜に関する基礎的な技術を習得させ、プロジェクト学習の中で適切に生かすことができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・発言 ・ワークシートの記入 ・レポートの記入
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜について科学的な思考と問題解決能力を身に付け、日々の観察記録簿や資料等を使って調査したことの中から分析し、考察する。 ・栽培上の課題を合理的に判断、日々の観察記録簿の中でのスケッチを利用した観察や考察が正しく表現することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・実技 ・服装・忘れ物 ・欠席・遅刻
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜についての興味・関心を持ち、プロジェクト学習に主体的に取り組む、課題解決に向けて積極的・科学的に取り組もうとする実践的な態度を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会・競技会・コンテスト ・日本農業技術検定
【観点別学習状況の評価】		
「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

畜産	単 位	2 単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第3 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を習得させる。 2 家畜の特性や飼育環境を理解させる。 3 合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	畜産（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	4章 家畜の飼育 1 養鶏 2 養豚 3 酪農	<ul style="list-style-type: none"> ・ニワトリの形態や習性、生理・生態的特性を理解する。 ・ニワトリの飼育管理技術を習得し飼育環境を理解する。 ・ブタの形態や習性、生理・生態的特性を理解する。 ・ブタの飼育管理技術を習得し飼育環境を理解する。 ・乳牛の形態や習性、生理・生態的特性を理解する。 ・乳牛の飼育管理技術を習得し飼育環境を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家畜の飼育管理や観察、実験などを展開する。
2 学 期	4 肉牛の飼育 5 そのほかの家畜 6 野生動物への対応 5章 畜産と経営 1 畜産経営の基礎 2 畜産経営の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・肉用牛の形態や習性、生理・生態的特性を理解する。 ・肉用牛の飼育管理技術を習得し飼育環境を理解する。 ・ヤギ、メンヨウの特性や品種、利用法について理解する。 ・野生鳥獣害問題について理解するとともに、その対策について考える。 ・経営の収益構造について、理解する。 ・マネジメントサイクルについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家畜の飼育管理や観察、実験などを展開する。
3 学 期	6章 畜産経営の実践 1 高校生による実践事例 2 農家による実践事例	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生による先進的な経営やブランド化を学び、経営の改善に意欲的に取り組む能力と態度を育成する。 ・農家による6次産業化の取り組み事例を知り、新しい形態があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家畜の飼育管理や観察、実験などを展開する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産に関する基礎的な知識を習得し、それぞれの農業生産物の特性とそれを取り巻く栽培・飼育環境との関係を理解しているか。 ・畜産に関する基礎的な技術を習得させ、プロジェクト学習の中で適切に生かすことができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・発言 ・ワークシートの記入 ・レポートの記入
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産について科学的な思考と問題解決能力を身に付け、日々の観察記録簿や資料等を使って調査したことの中から分析し、考察する。 ・飼育上の課題を合理的に判断、日々の観察記録簿の中でのスケッチを利用した観察や考察が正しく表現することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・実技 ・服装・忘れ物 ・欠席・遅刻
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産についての興味・関心を持ち、プロジェクト学習に主体的に取り組む、課題解決に向けて積極的活科学的に取り組もうとする実践的な態度を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会・競技会・コンテスト ・日本農業技術検定

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

農 業【農業経営】	単 位 数	2 単 位
	学 科・学 年	農 林 技 術 科 ・ 第 3 学 年

1 学習の到達目標

学習の到達目標	1 農業経営について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身につける。 2 課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する。 3 経営のマネジメントやマーケティングを自ら学び、農業振興や社会貢献に取り組む。
使用教科書・副教材等	農業経営 (実教出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考
1 学 期	第1章 農業の動向と農業経営 第2章 農業のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・農業に関するプロジェクトについて学びます。 ・世界の農業について理解を深めます。 ・日本の農業について理解します。 ・世界と日本を比較し、その特徴を調べます。 ・持続可能な農業経営について理解を深めます。 ・経営・計画について学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業と関連した新聞記事やビデオを利用します。
2 学 期	第3章 農業のマーケティング 第4章 農業経営のマーケティング活動	<ul style="list-style-type: none"> ・農業マーケティングについて理解します。 ・農産物のブランド化について理解を深めます。 ・市場調査と環境分析について学習します。 ・市場調査と環境分析の進め方について調べます。 ・農業経営の設計と診断について理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> 測樹の器具を実際に利用します。 ・授業と関連した実習を行います。
3 学 期	第5章 農業経営・マーケティングの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習から農業経営を考えます。 ・将来の農業のあり方や、地域の農業などを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業と関連した実習を行います。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の評価、経営計画、流通の関連性を考えさせ農業経営の改善について理解し知識を深めることができたか。 ・パソコンを用いて集めた資料をデータ化し蓄積、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加の態度 ・定期考査、レポート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決する実践的な能力を身につけているか。 ・農業経営について必要な諸資料を収集・分析し改善にいかにつなげて、説明できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方や内容 ・定期考査、レポート
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の評価について複利算の公式など計算を中心に行うために計算機を用意し実際に計算させてみる。 ・主体的に課題に取り組むと共に、実践的な態度を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートやレポートの内容 ・学習活動への参加の態度 ・出席状況
【観点別学習状況の評価】 「A：十分満足できる」 「B：おおむね満足できる」 「C：努力を要する」		

農業【 農業機械 】	単 位	2単 位
	学科・学年・学級	農林技術科 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 農業機械の構造と機能についての理解と関連する技術を身につける。 2 農業機械に関する課題を見だし、合理的解決する力を養う。 3 農業機械の特性を理解し、効率的な利用を自ら学び、主体的・協働的に取り組む。
使用教科書・副教材等	教科書：農業機械（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	第4章 作業機 1 耕うん・整地用機械 2 育成・管理用機械 4 畑作用収穫・調整機械	<ul style="list-style-type: none"> ・耕うん・整地用機械の種類と特徴、利用法を理解する。 ・育成・管理機械の種類と特徴、利用法を理解する。 ・イネの収穫・調整に使われる機械や施設について理解する。 ・イネの調整に使われる機械や施設について理解する。 ・畑作物の収穫に使われている機械について理解する。 ・収穫物の調整に使われる機械や施設について理解する。 	
2 学 期	5 飼料作用収穫・調整機械 6 運搬用機械 7 環境調整用機械 第5章 農業機械と安全 1 農業機械の整備と保守 2 農作業による事故	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料作物の利用方法と、使われる機械の関係について理解する。 ・飼料作物の収穫・調整に使われる機械の種類と特徴について理解する。 ・運搬用機械の種類と特徴、安全な利用法を理解する。 ・温湿度調節機械の種類と特徴を理解する。 ・自動制御と環境制御機器の概要を理解する。 ・農業機械の整備が、安全作業のためにも重要であることを理解する。 	
3 学 期	第6章 農業生産と農業機械の利用 第7章 農業機械による自動化	<ul style="list-style-type: none"> ・機械の経済性について正しく判断できる方法を身につける。 ・作付体系と農業機械化体系との関係を理解する。 ・農作業工程の自動化の概要を理解する。 ・高度な農業機械の種類と特徴を理解する。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	農業機械について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、発言 ・レポート記入 ・行動観察、実技
思考・判断・表現	農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。	
主体的に学習に取り組む態度	農業機械について特性を理解し、効率的な利用につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
【観点別学習状況の評価】		
「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

食品製造	単 位	2単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	食品製造に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と加工の原理を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる
使用教科書・副教材等	実教出版「食品製造」

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	食品加工と食品衛生 食品製造における機械と装置の利用 食品の包装と表示	法令に則た施設・設備及び食品の安全性確保のための衛生管理を学ぶ。 製造に用いる機械の操作技術を身につけ整備を学ぶ。 食品包装の目的、包装材料の種類や技術について理解する。	機械の説明や実習の内容について 食品製造実習を行う
2 学 期	野菜類の加工 牛乳の加工 鶏卵の加工	野菜類の分類や成分を学習し、さらに生理特性やおもな加工品について理解します。 牛乳の成分の特徴と加工特性および牛乳の加工品の種類を理解する 乳化性・熱凝固性・起泡性など、鶏卵のおもな加工特性を実験・実習を通して理解する	食品製造実習を行う
3 学 期	食品製造の実践と企業化	これまでの学習をもとに、生産管理の改善を図るために、生産環境の管理、衛生検査について理解する	食品製造実習を行う

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けているか。	・授業への参加のしかたや態度 ・課題やレポートの内容や提出状況 ・定期考査 ・小テスト
思考・判断・表現	食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養っているか。	
主体的に学習に取り組む態度	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的な態度を養っているか。	
【観点別学習状況の評価】 「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

農 業【森林経営】	単 位 数	2 単 位
	学 科 ・ 学 年	農 林 技 術 科 ・ 第 3 学 年

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>1 森林の測定・評価及び林業経営の計画と管理に必要な知識と技術を習得し、林業経営の改善を図る能力と態度を身に付けます。</p> <p>2 経営改善に必要な諸資料を収集・分析して、経営改善に必要な諸条件を的確にとらえ、より高い収益を上げる林業経営の改善計画を立て、林業を近代化し生産の向上を図る能力と態度を身に付けます。</p>
使用教科書・副教材等	森林経営 (文部科学省)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 基 準	備 考
1 学 期	第1章 森林とプロジェクト学習 第2章 世界と日本の森林・林業 第3章 森林経営の目標と組織	<ul style="list-style-type: none"> ・森林に関するプロジェクトについて学びます。 ・世界の森林・林業について理解を深めます。 ・日本の森林・林業について理解します。 ・世界と日本を比較し、その特徴を調べます。 ・持続可能な森林経営について理解を深めます。 ・経営・計画について学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業と関連した新聞記事やビデオを利用します。
2 学 期	第4章 森林の測定と評価 第5章 森林・林業の制度と政策 第6章 山地と農山村の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に直径、樹高の測定を行い、立木材積を算出できるようになります。 ・森林の測定法について理解を深めます。 ・森林林業の制度や政策について学習します。 ・その特徴・体系を学び、近年の動向を調べます。 ・山地の保全や治山事業・日本の農山村を理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・測樹の器具を実際に利用します。 ・授業と関連した実習を行います。
3 学 期	第7章 森林経営の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習から森林経営を考えます。 ・将来の森林のあり方や、地域の林業などを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業と関連した実習を行います。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の評価、経営計画、流通の関連性を考えさせ林業経営の改善について理解し知識を深めることができたか。 ・パソコンを用いて集めた資料をデータ化し蓄積、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加の態度 ・定期考査、レポート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決する実践的な能力を身につけているか。 ・林業経営について必要な諸資料を収集・分析し改善にいかにつなげて、説明できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方や内容 ・定期考査、レポート
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の評価について複利算の公式など計算を中心に行うために計算機を用意し実際に計算させてみる。 ・主体的に課題に取り組むと共に、実践的な態度を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートやレポートの内容 ・学習活動への参加の態度 ・出席状況
<p>【観点別学習状況の評価】 「A：十分満足できる」 「B：おおむね満足できる」 「C：努力を要する」</p>		

農業【林産物利用】	単 位	2単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 木材の構造、性質や用途を理解し、木材を製材、加工、利用する知識と技術を習得する。 2 製材に関すること、木材工作に関すること、木材の乾燥や保存に関することについて課題を見だし、合理的・創造的に解決する力を養う。 3 林産物の多様な利用について自ら学び、主体的協働的に取り組む姿勢を身につける。
使用教科書・副教材等	林産物利用（実教出版）、林業白書

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学期	第4章 木材の加工と利用 第1節改良木材の製造 第2節木材パルプと和紙 第3節木炭	<ul style="list-style-type: none"> ・木材の改良と成分の利用について理解します。 ・合板と集成材の接着法など製造法や用途について理解します。 ・改良木材の特性について考察します。 ・パルプの製造法や用途について理解します。 ・パルプ原料としての木材の重要性について考察します。 ・和紙の製造法や用途について理解します。 ・和紙の特色や製品の工芸的価値について考察します。 ・木炭産業および薪産業について歴史的経緯、現行の生産方式、生産の担い手、製品流通、消費動向について調査し、当面する課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合板を利用した木材加工品の製作に取り組みます。 ・木材を利用した工芸品について調査します。 ・木炭および木酢液の製造に取り組みます。
2 学期	第4節バイオマスの変換技術と利用 第5章 特用林産物の生産と加工 第1節きのこの生産と加工	<ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマスの変換利用について理解し、エネルギー効率などバイオマスの変換利用の当面の課題について考察します。 ・特用林産物の生産と加工について理解します。 ・農山村における位置づけの重要性や広葉樹林業との関連性について考察します。 ・きのこ産業について歴史的経緯、現行の生産方式、生産の担い手、製品流通、消費動向について調査し、当面する課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマスの利用方法について調査します。 ・しいたけの原木栽培および菌打ちに取り組みます。
3 学期	第2節山菜の加工 第3節薬用植物の生産と加工 第4節つる等の加工	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の特用林産物として竹、桐、山菜、薬用植物について、それぞれの加工法や特性について理解します。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」（職業に関する各教科については「知識・技術」）、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	林産物の利用について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、発言 ・レポート記入 ・行動観察、実技
思考・判断・表現	林産物の理由に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。	
主体的に学習に取り組む態度	林産物が多様な利用につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
【観点別学習状況の評価】		
「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足する」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

農業【測量】	単 位	2 単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第3 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	(1) 測量について、体系的・系統的に必要な知識と技術を身につける。 (2) 測量に関する課題を合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 測量について国土保全や環境創造の応用について自ら学び、主体的協働的に取り組む態度を身につける。
使用教科書・副教材等	農業測量（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学期	1 トラバース測量の進め方種類、踏査・選点 2 トラバース測量の外業角、距離の測定 3 トラバース測量の内業 (1) 方位角、方位の計算 (2) 緯距・経距の計算	・トラバース測量の種類や測定の基本について理解します。 ・トラバース測量の外業（機器を用いた測量）が出来るように学びます。 ・トラバース測量の内業（方位角、方位、緯距、経距の計算および誤差の点検、調整）が出来るように学びます。	・総合実習で、観測から計算、製図までの流れを取り扱います。 ・農業クラブ平板測量競技大会へ向けての練習にも取り組みます。
2 学 期	2 衛星測位と基準点測量 (1) 基準点と基準点測量 (2) 基準点測量のすすめかた (3) 衛星測位による観測 (4) 多角測量による観測	・基準点測量の基本と方式について理解します。 ・GPSの原理やその測量方法を学びます。 ・トータルステーションによる観測方法やその計算について理解します。 ・基準点の成果表の利用について、学びます。	・トータルステーションによる観測方法を総合実習で扱います。
3 学 期	3 写真測量 (1) 空中写真の性質 (2) 写真測量の利用 (3) 地理空間情報	・写真測量の概要と空中写真の性質について学びます。 ・地理情報システムについての概要や利用について学びます。	・実際の空中写真の判読を行います。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」（職業に関する各教科については「知識・技術」）、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能 知識・技術	・測量の目的に必要な知識を理解し、基礎的な知識を身につけ、測量の方法、誤差の調整等を理解しているか。 ・測量器具を正確に取り扱い、測量方法及び、誤差の調整における技術や能力を適切に身につけているか。	学習活動への参加の態度 ・定期考査、レポート ・測量器具の取り扱い、方法、誤差の調整、面積の計算方法、製図
思考・判断・表現	・測量の目的に応じて課題解決を目指した思考、測量結果の整理と誤差の原因について考察しているか。	・出席状況
主体的に学習に取り組む態度	・測量の学習に興味・関心を高め、測量に関する課題に主体的、意欲的に取り組む実践的な態度を身につけているか。	・継続的な記録の有無

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足でる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

農 業【地域資源活用】	単 位 数	2 単 位
	学科・学年	農林技術科・第3学年

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>1 地域資源の活用について関連する技術を身に付ける。</p> <p>2 実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、地域資源の活用に関する課題を発見し解決する力を養う。</p> <p>3 地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書・副教材等	実教出版「地域資源活用」

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	(1) 本校の加工品と地域資源活用 (2) 地域資源活用の意義と役割	<p>1 本校の加工品についての製造方法や施設設備、ラベル、価格等を知り、今後の学習の基盤とします。</p> <p>2 加工品などの歴史、地域社会、コミュニティの変化と現状・課題について理解します。</p> <p>3 地域社会における課題解決に向けた施策を考案し、その方法について協働的に取り組みます。</p> <p>4 異業種連携と商品価値について理解します。</p>	<p>○製造実習を行います。</p> <p>○収穫体験実習など</p> <p>○地元特産品の市場調査</p> <p>○地域調査・資源探検ワークショップ</p>
2 学 期	(3) 地域資源の価値と活用	<p>1 地域資源と安定的な食料生産と環境保全及び資源活用について考察し、適切な資源を選定します。</p> <p>2 商品開発の概要と実施の手順について理解します。</p> <p>3 サービス業への活用を理解し、地域ネットワークとの繋がりと有効活用の必要性を確認します。</p>	<p>○食品製造を行います。</p> <p>・豚味噌 ・麦みそ</p> <p>○商品開発に向けた実験実習を行います。</p>
3 学 期	(4) 地域と連携した活動	<p>1 地域資源のマーケティングとブランドづくりについての知識・技術を習得し、魅力を伝える実践を行います。</p> <p>2 起業や六次産業化について理解します。</p>	<p>○食品製造実習を行います。</p> <p>○実践発表会</p>

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	<p>○学習活動への参加の仕方 や態度</p> <p>○ワークシート・レポート</p> <p>○定期考査</p>	<p>○ワークシート・レポート</p> <p>○定期考査</p> <p>○学習活動への参加の仕方 や態度</p> <p>○実践作品</p>
思考・判断・表現	<p>○学習活動への参加の仕方 や態度</p> <p>○ワークシート・レポート</p> <p>○実践作品</p>	
主体的に学習に取り組む態度	○実習や授業への主体的な活動や発表への取組	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」 「B：おおむね満足できる」 「C：努力を要する」